



2/17

地域経済と交流人口活性化への効果に期待

信金中央金庫から1千万円の企業版ふるさと納税（村上市スケートパーク）

信金中央金庫の創立70周年記念事業として、市の「スケートボードの聖地『むらかみ』セカンドプロジェクト」に、企業版ふるさと納税を利用して1千万円の寄附がありました。

これは、自治体が行う地域創生事業を対象として、地元の「しんきん」である村上信用金庫から推薦され、全国から応募のあった自治体の中から採択を受けた103事業のうちの1つとして選ばれたものです。

贈呈式は村上市スケートパークで行われ、市長は「背中を押してくれる大きな力になる。スケートパークの教室のほか、さまざまな展開を考えていきたい。」と喜びを語りました。



▲村上信用金庫の大滝理事長から目録を受け、お礼に子どもたちによるスケートボードのデモンストラレーションが披露されました

2/19

地域の伝統を学ぶ

保護者懇談会で日本国太鼓を披露（さんぼく小学校）



▲3年生29人が、それぞれのパートに分かれて演奏を披露

さんぼく小学校3年生が、保護者懇談会で「日本国太鼓」を披露しました。学校の地域学習として10月から2月にかけて、地域の方から「日本国太鼓」の歴史などを学び、週1回練習をしてきた成果として、保護者の前で演奏を披露しました。

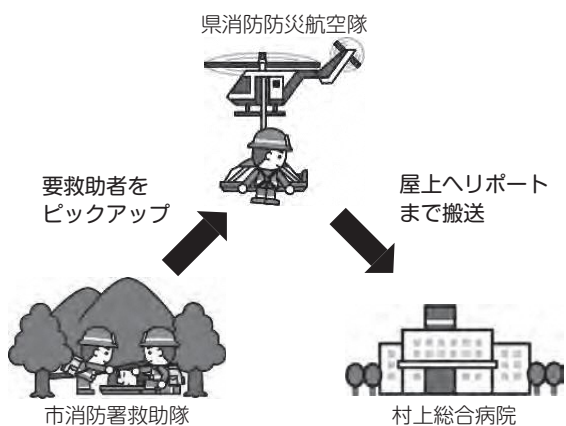
保護者の皆さんは、我が子の頑張りを見つめ、演奏終了後、会場は拍手に包まれました。

演奏を終えた3年生の女子児童は、「日本国太鼓を知らなかったけど、やってみたらすごく楽しかった。できたら今後も続けてみたい。」と語っていました。

2/19

冬山登山者の救助要請を想定した実践訓練

三機関連携した合同訓練を実施（神林地域大平山）



村上市消防署では、冬山での救助技術の向上を目的に「冬季山岳救助訓練」を実施しています。今年も、大平山を訓練場所とし、^{おおたけやま}県消防防災航空隊、村上総合病院と連携した合同訓練を実施しました。

訓練は「登山中の男性1人が登山道から滑落し足を負傷。友人から119番通報あり」という想定で実施。市消防署救助隊が斜面にいる要救助者を担架に固定して登山道まで救出。その後、県消防防災航空隊がヘリコプターで要救助者を吊り上げ機内に収容し、村上総合病院まで搬送後、医師に引き継ぐまでを訓練として行いました。

今回の合同訓練を経て、冬山での救助技術の向上だけでなく、各機関の連携強化を図ることができました。



▲斜面にいる要救助者を救出する救助隊

2/19~23

咲き誇るシルクの花々、一足お先に春爛漫 会員と小学生によるまゆクラフトの作品展（村上プラザ）



▲30分ほどでかわいいうさぎが作られる体験コーナーは子どもたちに大人気

今回で25回目を数える「朝日村まゆの花の会」による作品展が開催されました。

これまでは拠点である朝日みどりの里を会場に開催してきましたが、今回は市民により広く知っていただくためと会場を移し、初めて村上プラザセントラルコートで開催しました。

展示された作品は会員によるもののほか、朝日地域の小学校3校の3年生が総合学習で学んだことをまとめた資料の発表と、子どもたちが作ったそれぞれの作品も展示されました。

作品展では即売会や体験会も同時に行われ、買い物で訪れた人は足を止め、色とりどりのシルクフラワーを手にしていました。

2/24

お互いに学びあえる場を実現 長寿大学と小学生の学習交流会（神林地区公民館）

神林地域長寿大学では、平林小学校1年生と「特別学習会」を行いました。長寿大学生の皆さんが先生役となり、小学生に「昔のあそび」を体験してもらう学習会で、小学生はあそびごとに分かれた部屋で、先生から昔のあそびを習いました。

どのようなあそびを教えるか、どうやったら楽しんでもらえるか、長寿大学の学生の皆さんが意見を出し合って当日の内容を決めました。児童からは「楽しかった」「またやりたい」などうれしい感想をいただき、有意義な時間を過ごすことができました。



▲おはじきを使って、昔の遊びを体験する児童

2/25

地域ぐるみで子どもの成長を支える 金屋小学校学校運営協議会に文部科学大臣賞（金屋小学校）



▲小川会長（中央）が教育長から表彰状を受け取る

地域と学校が連携し、子どもの成長を支える地域学校協働活動が評価され、金屋小学校学校運営協議会が文部科学大臣表彰を受けました。

金屋小学校は、清流「荒川」を会場にした青空教室や学校田での田植え、収穫祭などを保護者や地域ボランティア、農家、JA、漁協の協力を得て実施しています。また、金屋地区集落支援員やあらかわ地区まちづくり協議会との連携により、大人たちと一緒に地域活性化を考えるつどい場「おらだり」を展開し、地域の高齢者との交流などにも力を入れています。

小川会長は、「これまで地域ぐるみで積み上げてきた活動が評価されたことはとても嬉しい。今後の励みにしたい。」と話していました。



2/26

後輩に伝統の「バチ」を託しました 朝日三面川太鼓引継ぎ式（小川小学校）

小川小学校の「朝日三面川太鼓」の歴史は旧荻太小学校の「こぶし太鼓」が始まりで、旧三面小学校では「わかあゆ三面太鼓」と名称が変わり、小学校の統合が繰り返される中でも大事に伝統が引き継がれてきました。

例年、二子島の島開きやあさひまつりなどのイベント、福祉施設での演奏を行ってきましたが、去年はイベントの中止が相次ぎ、演奏する機会がめっきり減ってしまいました。

6年生の卒業前に行われた引き継ぎ式では、リーダーを務めてきた佐藤さくらさんから「お客さまも喜び、自分も満足できる演奏を目指してください」と後輩にエールが送られ、新リーダーとなった5年生の横山祐大さんは「6年生から教えてもらったことを忘れず引き継いでいきます。」と誓い、6年生との最後の共演を楽しみました。



▲5・6年生で演奏された「川の章」